2307KeMCo

View Repo

ign Preview HTML Source Plain-Text Email Details

View this email in your browser

大好評開催中の「『さすが！北斎、やるな！！国芳』－浮世絵のマテリアリティ」は7月15日（土）までです。
葛飾北斎の浮世絵の中でも特に人気の高い《凱風快晴》は必見です。朝ドラ「らんまん」で話題となった歌川国芳の愛らしい猫のほか、里見八犬伝に取材した下絵作品にもご注目ください。
展覧会最終日の7月15日は、土曜特別開館を行います。平日はお仕事や学校で来られない方はこの日がチャンスです。

KeMCoの近況

【7/15まで】「さすが！北斎、やるな！！国芳」－浮世絵のマテリアリティ

好評開催中の展覧会「『さすが！北斎、やるな！国芳』－浮世絵のマテリアリティ」は、慶應義塾が所蔵する高橋誠一郎浮世絵コレクションのなかから、互いに他とは一線を画するエキセントリックな表現で人気を博した二人の浮世絵師、葛飾北斎と歌川国芳の作品を紹介しています。あわせて、展覧会で初紹介される新出の絵師たちによる下絵群からは、彼らの生き生きとした筆さばきを十分にご堪能いただけることでしょう。

学生スタッフ「KeMCoM」が企画した「KeMCoM　AI×浮世絵」企画では、デジタル投票や多色刷り版画の制作過程をイメージしたオリジナルポストカード制作体験などもお楽しみいただけます。
また、カフェ八角塔では15時からのカフェタイムで展示作品をイメージしたかき氷を提供中（期間限定。詳細はカフェ八角塔のSNSをご覧ください）。
コラボレーションも盛りだくさんの展覧会です。

「さすが！北斎、やるな！！国芳」－浮世絵のマテリアリティ

前期｜2023年5月15日（月）～6月13日（火）
後期｜2023年6月15日（木）～7月15日（土）
特別開館｜7月15日（土）
開館時間｜11:00～18:00（土日休館）
会場｜慶應義塾ミュージアム・コモンズ展示室（三田キャンパス東別館）
対象｜どなたでもご覧いただけます
費用｜無料（事前予約不要）
主催｜慶應義塾ミュージアム・コモンズ（KeMCo）、慶應義塾大学三田メディアセンター
助成｜公益財団法人　花王 芸術・科学財団

「さすが！北斎、やるな！！国芳」－浮世絵のマテリアリティ

［論文募集］The KeMCo Review 02（特集：パブリック・ヒューマニティーズ）

The
KeMCo
Review
02

Special issue: Public Humanities

特集
パブリック・ヒューマニティーズ

Call for Papers
論文募集

プロポーザル〆切
2023 年 7 月 17 日（月）

「The KeMCo Review」（ケムコ レビュー）は、慶應義塾ミュージアム・コモンズ（KeMCo）の活動に関連する諸領域における、学内外の研究や実践の共有化を目的とする学術誌です。

2024年3月に刊行予定の第2号に掲載する投稿論文を募集いたします。
みなさまの研究、実践の成果を、この機会にぜひご共有くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

論文募集に関する詳細はこちら

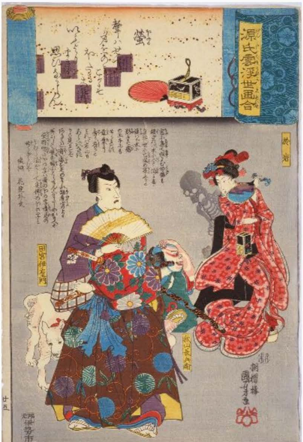
［論文募集］The KeMCo Review 02（特集：パブリック・ヒューマニティーズ）

プロポーザル〆切＝**2023年7月17日（月）**
原稿提出〆切＝**2023年9月30日（土）**

［論文募集］The KeMCo Review 02（特集：パブリック・ヒューマニティーズ）

展示室より、推しモノ #20

開催中の「『さすが！北斎、やるな！！国芳』－浮世絵のマテリアリティ」より、展示中の作品を紹介します。



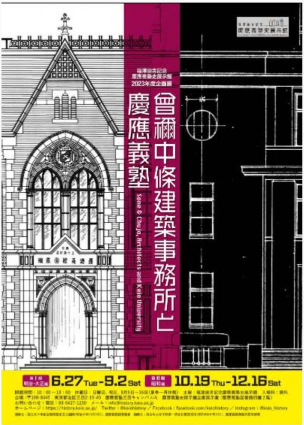
歌川国芳　「源氏雲浮世画合 蛍」慶應義塾（高橋誠一郎浮世絵コレクション）（後期展示）

　後期の展示室より、「源氏物語画合」より「蛍」を紹介します。ちょうど今頃、夏の夜に飛び交う蛍、皆さんは何をイメージしますか？
　この作品では、上部に、源氏物語の「蛍」巻の和歌を、その下に歌舞伎「東海道四谷怪談」の場面を取り上げています。描かれているのはお岩と伊右衛門、浪人の長兵衛、お岩の影は骸骨になっています。静かに伊右衛門を見つめる骸骨の空虚な眼には、乙女心が宿っているように見えます。狂言作者であり戯作者の花笠外史の詞書によれば、蛍が身を焦がす光に、愛する人への執着心を消せない亡魂を読み込んだ見立て絵となっており、取り合わせの妙も見どころです。
　前期に展示した「源氏雲浮世画合　帚木」では、葛の葉狐の正体が、月に照らされて生じた障子の影として現れたり、「木曽街道六十九次之内妻籠」では、葛の葉狐が化けていた母親の足元は、白抜きの輪郭線で描き、上半身は薄い墨線となり、実体である黒い狐のシルエットと重なります。
　影を巧みに用いた国芳の亡霊、もののけの表現にもご注目ください。

松谷 芙美（KeMCo専任講師）

空き地

福澤諭吉記念慶應義塾史展示館にて開催中の「**2023年度春季企画展　曾禰中條建築事務所と慶應義塾Ⅰ　明治・大正編**」を紹介します。


福澤諭吉記念
慶應義塾史展示館
福澤諭吉記念慶應義塾史展示館
2023年度企画展
曾禰中條建築事務所と慶應義塾
Sone & Chujo, Architects and Keio University
第Ⅰ期 明治・大正編
6.27 Tue - 9.2 Sat
第Ⅱ期 昭和編
10.19 Thu - 12.16 Sat
お問い合わせ：電話：03-5427-1200　メール：info@history.keio.ac.jp
ホームページ：https://history.keio.ac.jp/　Twitter：@keiohistory／Facebook：facebook.com/keiohistory／Instagram：@keio_history

建築から考える慶應義塾史

慶應義塾の創立者・福澤諭吉と日本近代建築の父・ジョサイアコンドルといって、接点を思いつくでしょうか。

　従来慶應義塾と建築を語る際は、モダニズム建築の谷口吉郎以降に焦点が当たってきました。私が常々関心を持っていたのは、それらの建築がなぜ慶應に存在するのかという歴史的文脈です。今回慶應義塾史展示館で始まった「曾禰中條建築事務所と慶應義塾」展はその根を辿っていくものといえるでしょう。

　展示資料の核は、元々曾禰中條建築事務所に保管されていた設計原図です。今回の展示準備の過程で、実は多くの慶應関係の原図を、1971年に塾史資料室が買い戻していたことが判明しました。1909年三田から始まり、信濃町・日吉両キャンパスのグランドデザイン、三田の再構築へと続く同事務所の仕事は、震災、戦災を経て、いまやわずかしか面影を留めません。

　慶應義塾の建築の歴史に、福澤諭吉創立の私立学校としての歴史的文脈が息づいていることが再確認される機会になればと考えています。

都倉 武之（福澤研究センター准教授）

お知らせ

三田でご覧いただける展示

2023年度春季企画展　曾禰中條建築事務所と慶應義塾Ⅰ　明治・大正編
6月27日（火）–9月2日（土）
主催｜福沢諭吉記念 慶應義塾史展示館
会場｜慶應義塾史展示館 企画展示室（慶應義塾図書館旧館2階）

「アート・アーカイヴ資料展XXV「歌舞伎への情熱——田邊コレクション／『役者』関係資料展」
5月22日（月）–**7月28日（金）**
主催｜慶應義塾大学アート・センター
会場｜慶應義塾大学アート・スペース

KeMCo Voiceでは皆様のご意見・ご感想を募集しております

KeMCo Voiceやミュージアム・コモンズへご意見・ご感想がございましたら、以下のアドレスまでお寄せいただければ幸いです。
いただきましたご意見は匿名でご紹介させていただく場合がございます。紹介をご希望でない場合はその旨をお書き添え下さい。

> ご意見・ご感想はこちら

次回の*KeMCo Voice*は*2023*年*8*月に配信予定です。
過去のニュースメールはこちら

Copyright © 2019-2023 慶應義塾ミュージアム・コモンズ　Keio Museum Commons

〒108-8345　東京都港区三田2-15-45

Tel:　03-5427-2021　Fax:　03-5427-2022
お問い合わせ

KeMCo Voiceの配信停止をご希望の方はこちら

This email was sent to << Test Email Address >>
why did I get this?　unsubscribe from this list　update subscription preferences
慶應義塾ミュージアム・コモンズ · 2-15-45Mita · Minato-ku, Tokyo 108-8345 · Japan